



国際ロータリー第2690地区(鳥取・島根・岡山)

2011-2012 ガバナー月信

# Governor's Monthly Letter

vol. **2**  
2011.8.1



長谷寺絵馬「曳黒馬図(慶長20年)」

## C O N T E N T S

- 2 ガバナーメッセージ  
「国際ロータリー第102回年次大会に参加して」
- 3 ガバナー・エレクトメッセージ  
「会員増強・拡大月間によせて」
- 4～9 特集・会長エレクト研修セミナー (PETS)
- 10～13 担当地区幹事・委員長挨拶
- 14 国際ロータリー年次大会に参加して
- 15 2011-2012年度 RI第2690地区  
ロータリー財団寄付クラブ目標額
- 16 青少年派遣交換奨学生募集 文庫通信



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012年度  
国際ロータリー会長 **カルヤン・バネルジー**

国際ロータリー第2690地区(鳥取・島根・岡山)  
2011-2012年度 ガバナー **伊藤 文利**

【お詫びと訂正】 月信7月号(vol.1)に下記の誤りがありましたので、訂正してお詫び申し上げます。

P14 「ロータリー特別月間・週間及び行事予定」 「創立周年記念」

【追加】 笠岡ロータリークラブ 55周年 1956年6月創立  
周年行事 2011年9月30日(金)



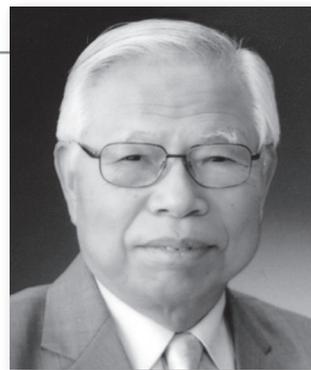
## ガバナーメッセージ

# 2011年国際ロータリー 第102回年次大会に参加して

(米国ルイジアナ州ニューオーリンズ市 2011年5月21～25日)

国際ロータリー第2690地区ガバナー

## 伊藤 文利



5月19日朝、小林完治直前ガバナーを団長に岡山4人、倉吉3人の計7人の団員は岡山空港を勇躍飛び立ち、ロータリアン最大の祭典であるRI年次大会に向け4泊6日のスタートを切りました。(当地区では合計15名の会員・家族が参加)

今年の会場であるニューオーリンズは1976年最初のRI年次大会を開催し、今回は2回目に当たります。

RI年次大会公式プログラムの全行事は、ニューオーリンズ中心部に位置する国際会議場であるアーネストN.モリアル・コンベンション・センターで行われました。3階建ての、ものすごく長い長方形の建造物の中央部分のみを借り切った会場で、2万人収容の大ホールと隣接した広大な「友愛の家」広場、2階3階には分科会用の20以上の小ホールを用意し、RI年次大会に相応しい準備がなされていて大変感銘を受けました。

何と言ってもRI年次大会のハイライトは、初日の本会議開会式でしょう。例年、参加者が多いため2回に分けて式を行うのが慣例でありましたが、今年は1回だけということもあり、2万人収容の大ホールは満席のようでした。

本会議30分前には毎日余興があります。この町はさすが米国南部ディキシーランドジャズ発祥の地、本会議場でも、友愛の家でも、軽快なリズムに乗った音楽が聞こえているうちに式典が始まりました。

恒例の全加盟国の国旗入場式が始まり、日の丸の旗は30数番目に壇上に現れました。我々もウォーと声を張り上げ、叫び感激の一瞬を味わいました。ロータリー発展著しい韓国、インド、アフリカ諸国などは、国旗が入場する度に成長著しい国力の勢いを感じさせる大歓声がかましていました。

いよいよカウボーイハットを被り、カントリーミュージックをバックに、我々のRI会長クリンギンスミス氏が颯爽と登壇しました。彼の基調講演は「地域を育み、大陸をつなぐ」というRIテーマを中心にしたもので、世界のロータリアンに対し「『より大きく、豊かで、大胆な』

奉仕活動長期ビジョンを立案し、地域に世界に良いことをしよう」と弁舌さわやかに鼓舞・激励の演説をされました。

4日間を通し、大体午前中は本会議、午後は分科会という形式で大会は進行了。本会議での講演者の中にビル・ゲイツ氏、次期RI会長カルヤン・バネルジー氏達の名前があり、又、我々の田中作次氏のRI会長受諾演説もありました。

「友愛の家」は参加者にとって毎回最高の楽しみであります。世界各地から出店した100以上のブースが軒を並べた姿は壮観です。ロータリーグッズ、装飾品、民芸品、宣伝、広報などのブースがあり、色彩豊かな民族衣装をまとった色々な人種の参加者があふれ、身動きができないほどの混雑ぶりでした。一方、片隅に作られた舞台上では、軽快なジャズビートが奏でられ、観衆は歌い、踊りながら楽しんでいました。私はわが地区67クラブから預かった信任状を提出するため、友愛の家に作られた2011年信任状委員会ブースに赴いたところ、その部署責任者の一人として元RI理事渡辺好政先生が駐在しておられ、懐かしい対面をさせていただきました。

来年はタイのバンコックでRI年次大会は開催されます。皆さん、近場ですので大会に参加し、大いに楽しみましょう。



## ガバナー・エレクトメッセージ

# 会員増強・拡大月間によせて

ガバナー・エレクト

森田 昭一郎



ここ10年間の第2690地区における会員数の減衰率は、残念ながら他地区に比べても高率である。

約1000名に近い会員減となり、2011年度1月末において3122人となってしまった。

少子化・婚姻年齢のアップ等の減少により、日本全体の人口減は社会現象となっているが、社会一般のビジネス組織のあり方から考えると、まさに組織存続の危機ともいえる数字である。

私自身は入会して27年になるが、ここ2・3年仕事の関係で、しばらくロータリーから距離を置いていた時期があった。しかしロータリアンであるという自覚は、27年の間に叩き込まれていたので絶えず一定の時期・一定の場所で、いわば定点観測のような形で、ロータリー運動の動きを眺める機会に恵まれた結果、5つの問題点を抽出してみた。

- 1) 組織の複雑化
- 2) 加齢による活性の低下
- 3) 活動そのものが、現時点での社会変化のスピーについていけなくなっている
- 4) 比較的若い会員が望む活動の効率化が、はたせなくなった
- 5) ロータリー運動の基本的な活動コンセプトを、会員に十分伝えるシステムが弱くなった

等々の要因のもとに、結果会員数の減少という事態が起こったように思える。しかも、毎年増強・拡大を重要テーマとして掲げながらである。

しかし、こういった問題を挙げ連ねても解決にはならない。これらの問題を解く現実的な答えを一刻も早く見出さねばならない。

今、日本はあの震災を境に、なにかが変わりつつあるように思える。今までの社会通念、常識に、この国は疑問を持ち始めたように思える。

今がまさに100年もの間保持されつづけてきたロータリー精神の復活の時ではないか、ロータリーの英知と善意が求められる時代になったのではないか、そんな想いがしてならない。

一人でも多くの人にロータリーを説き、共通の認識のもとに共に再生する、その事を全会員が意識し、共に行動する仲間として語りかけ、チームとしての緊密な関係を作る必要を事あるごとに、語りかけていきたい。

私自身は新しい会員勧誘をする際、ロータリーの本質についてあまり語る事がない。それは言葉を尽くしても、伝わりにくい性質のものだと熟知しているからである。むしろ、ロータリーに入会した際に受け取る会員証とバッジを大切にしてくれとお願いする。それは、全世界に通用する一種のIDカードなのだからと、あなたが国内・国外で困難にあった時、それを提示すれば問題を解決してくれる人が現れるからと、それがロータリーなのだと説明する。これは実体験から出ている言葉なので、私自身は説得力があると思っている。



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

# 特集 会長エレクト研修セミナー (PETS)

## 基調講演 (要旨)

2010-2011年度 ガバナー・エレクト

### 伊藤 文利

会長エレクトの皆さんには、まず「RI長期計画」を十分に理解してもらいたい。

上半分の3項目はロータリーを背負って立つ3本柱であり、ロータリーの神髄である。

- クラブのサポートと強化  
⇒5大奉仕部門の調和のとれた奉仕活動
- 人道的奉仕の重点化と増加  
⇒新世代プログラムを重点的に取組みたい
- 公共イメージと認識度の向上  
⇒良いことをしたら堂々と公表したい

ロータリーは「理念」だけの組織でなく、「実践」の組織であり、その両輪のバランスが大切で、具体的には「クラブ例会」は学ぶところであり、日常のなかで奉仕活動の実践に務めてもらいたい。「I save」でも「We save」でもなく、発想を転換し「地域の人々の生活を改善したい」という情熱が最も基盤である。

次期RI会長のカルヤン・バネルジー氏のテーマは「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」である。世界を変えるためには、まず自分から変えていかなければならない。

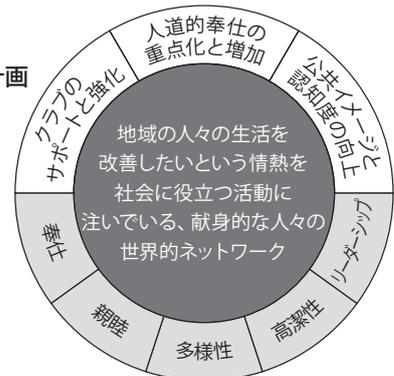
会長の仕事は

- ロータリーを良く理解している
- 自分のクラブを良く理解している
- 地域のニーズを会員共々良く探る
- クラブの長期計画を立てる
- CLPを理解し、自分のクラブの長所欠点を知り、棚卸を試みる

と考えている。

クラブ会長は会員の「公僕」として動いてもらいたいし、私はこれから会員3100人の「公僕」として会員の利益のために動くつもりであるので一緒に頑張りましょう。

2010-13年度 国際ロータリー長期計画



### 《PETSプログラム》

本会議 (1日目) < 3月5日 (土) 13:00 ~ 17:30 >

- セッション①「基調講演」
- セッション②「クラブ会長のあり方」  
「クラブ・リーダーシップ・プラン (CLP) について」  
CLP実践クラブの報告
- セッション③「ロータリー財団夢計画について」  
「米山記念奨学会について」

懇親会 < 3月5日 (土) 18:00 ~ 19:30 >

本会議 (2日目) < 3月6日 (日) 9:00 ~ 11:50 >

- セッション④ 講演「Better Rotary and Better Rotarians」
- セッション⑤ グループ・ディスカッション  
グループ・ディスカッション報告
- 総括・講評

会場：新日本海新聞社中部本社2F

- |            |           |
|------------|-----------|
| ガバナー・エレクト  | 伊藤 文利     |
| 次期地区研修リーダー | 鳥居 滋      |
| ガバナー       | 小林 完治     |
|            | 赤磐RC、大田RC |

- |           |      |
|-----------|------|
| 地区R財団委員長  | 鳥居 滋 |
| 米山記念奨学会理事 | 森 嵩正 |

会場：倉吉シティホテル2F

会場：倉吉シティホテル2F

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 元国際ロータリー理事       | 渡辺 好政 |
| 副リーダー (次期ガバナー補佐) |       |
| ガバナー・エレクト        | 伊藤 文利 |

## 特集 会長エレクト研修セミナー (PETS)

# クラブ・リーダーシップ・プラン (CLP) について

2010-2011年度 ガバナー

小林 完治

CLPは2004年11月にRI理事会がクラブ管理組織として承認された(採用はクラブへの義務ではない)。第2690地区においても2006年新宮ガバナー年度に提案されたが、その時当地区の結論は「各クラブの自主性に任せ、必要とされるクラブで実践する」であった。

CLPの当初の目的は「40人以下の小規模クラブにおいて、委員会組織が多いと十分に機能しない」という問題に対して、委員会組織を

- 会員増強委員会
- クラブ広報委員会
- クラブ管理運営委員会
- 奉仕プロジェクト委員会
- ロータリー財団委員会

の5つの委員会に統合して、効果的なクラブ管理の枠組みとし、ロータリークラブの強化を図ることであった。

その後、CLPを推進していく中で小規模クラブに限らず、大規模クラブにも適用できることが判ってきて、2010年の「手続要覧」には冒頭からCLPについて記載されている。

CLPは「五大奉仕」を軽視していると誤解されることがあるが、「五大奉仕」はロータリーの綱領にもあるように活動の「目標」であり、CLPは「五大奉仕」を実践する為、クラブが効果的に機能するための「手法・手段」であって、決して軽視しているものではない。

CLPを採用する利点としては

- ①全ての会員が夢を語り、参加できる
- ②クラブ運営の簡素化により奉仕と親睦の時間が増える
- ③クラブへの参加機会が増し、指導者が育つ
- ④クラブへの参加により会員の保持、退会防止につながる
- ⑤より多くの会員が目標達成に協力できる
- ⑥クラブの次年度への継続性の確保が容易となる
- ⑦クラブ内がリフレッシュし、魅力が増す

等があげられる。

ロータリークラブは役員の任期は基本的に単年度制であり、その良さはあるものの、より効率的な良い仕事をするには単年度制では難しい部分もある。RIも長期計画を作成し、3年計画のビジョンを描いて当該年度を運営している。クラブも同様と考え、公式訪問では「ビジョン委員会」を作っていただくようお願いしてきた。直前・現・次期3代のクラブの指導者で以下のことを実践され、より良いクラブ運営をお願いしたい。

- ①長期計画：クラブ・ビジョンの策定と3～5年の長期計画の立案
- ②年次計画：長期計画を支える年次計画
- ③上記計画をクラブ協議会で周知。徹底した練りあい!
- ④確実なコミュニケーションを図る：みんなの夢、みんなの実現へ
- ⑤指導者の継続性を確保する
- ⑥クラブ細則の変更：委員会構成、リーダーの役割と責務を明記する
- ⑦クラブ会長、理事会、委員会委員長、地区ガバナー、ガバナー補佐及び地区委員会とのコミュニケーションを充分に取る





こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

特集

会長エレクト研修セミナー (PETS)

## “Better Rotary and Better Rotarians”

元国際ロータリー理事

渡辺好政

クラブ会長エレクト研修セミナー（英文名の略称 PETS）は、クラブ会長に就任するための必須要件の1つであります。PETSの最後の“S”にあたる英語の seminar という字の原義は、種、苗であり、それらを育てる苗床であります。ご参会の会長エレクトの皆様には、本日のセミナーにおきまして、伊藤文利DGEの主題講演をはじめ、多くの地区指導者の皆様がお話になるそれぞれの講演の中から、ご自身で、ロータリーの素晴らしい種と苗をお心に留められ、クラブに持ち帰られて、クラブ全員のロータリアンの皆様とご一緒に、その種と苗を大切に育てられ、見事な花を咲かせられ、素晴らしい実を結ばれるよう期待しております。伊藤文利DGEの強調されますように、ロータリーは、人づくりであります。ロータリーの目的は、よりよきロータリー・クラブづくりとよりよきロータリアンをつくることなのです。

インド出身の3人目のRI 会長となられるカリアン・バネルジーさんは、豊かな精神文化・文明に育まれた母国において、東洋的なお心を持って、静かにご自身を省みられ、蓄えられたエネルギーを奉仕活動に発揮しようとされています。本年の7月1日より、『こころの中を見つめよう 博愛を広げるために』“Reach within to Embrace Humanity”というテーマで私たち120万のロータリアンを指導されます。

私は、伊藤文利DGEとともに、本年の1月、米国はサン・ディエゴで開催された国際協議会に出席し、カリアン・バネルジー会長エレクトの会長テーマ講演を拝聴したときの「こころが揺さぶられるような」感動を今もって忘れることができません。

その感動の時、同じインド出身のラゼンドラ・サブー RI元会長の言葉を思い出しました。インドの人々は、ご自分の精神性を豊かにするために、個人的な精神的指導者をお持ちであります。サブーさんは、RI会

長として奉仕活動を行っているとき、『時として自分の仕事を犠牲にしてまで、ロータリーのために時間を割き、任務を果たすことに意義があるだろうか』と自問自答をされ、ご自身の精神的な指導者であるスワミジさんに教えを請われました。スワミジさんは、静かなお声で、厳然と『答えは簡単である。人間として成長できるなら、それは意義がある』とのことでした。

会長エレクトの皆様には、本年7月から、クラブ会長としてリーダーシップを発揮され、自身もよりよきロータリアンへと成長され、また、ご自身が主宰なさいますクラブもよりよいクラブへと成長されることを願ってやみません。ご健闘を祈ります。



# 特集 グループディスカッション

「クラブ会長要覧」に基づくグループディスカッションのテーマ

- [A] 現在、貴クラブに於いて、直面する課題は何か？  
 [B] 直面する最重要課題の内、CLP9 項目のどの項目からチャレンジしてみたいと考えるか？  
 [C] クラブ会員の意欲を駆り立てるものは何か？ [D] 最近、貴クラブで成功した奉仕プロジェクトは何か？  
 [E] 長期計画はどのように作成されているか？

## 第 1 2 グループ .....

カウンセラー パスト・ガバナー <b>鳥居 滋</b> (岡山東RC)	リーダー 次期ガバナー補佐 <b>酒井 英</b> (境港RC)
副リーダー 次期ガバナー補佐 <b>谷口 譲二</b> (鳥取RC)	

フリートキングにより日頃ロータリーに関して感じていることなどを、全員に発言してもらいグループディスカッションが進行された。その中で「会員数の減少と会員の高齢化」の意見が一番多く出された。特筆すべきは米子東RCより「チャレンジ100」(会員数を現在の75名から100名に増強する)としたクラブの目標を設定して取り組んでおり、いい結果が出つつある。鳥取北RCより会員増強の前提は現会員に「疲労よりも喜びが蓄積」するようにロータリーらしいやり方を考える。倉吉RCからは「ロータリーって何ですか」

と問いに一言で表せるものがあれば良いと思う。米子RCからは世間からRCは堅苦しい処との誤解があり「ロータリーは楽しい集まり」なのだ、と世間に広報する。等々有益な意見が出された後、鳥居 滋カウンセラーより以下の講評があった。

- ① ロータリーは職業倫理を重視している。  
基本となるのは「四つのテスト」
  - ② フルメニューでなくても個別の特色ある形でやる、それがCLPの考え方
  - ③ 「世界でいいことをする」(ロータリー財団)  
「地域でいい事をする」(新地区補助金)  
是非多くのクラブで奉仕活動をして欲しい。
  - ④ ロータリーは成熟したものではない。  
より良い形を求めて努力して欲しい。
- (文責・廣吉宗一)

## 第 3 4 5 グループ .....

カウンセラー 直前ガバナー <b>葛尾 信弘</b> (岡山東RC)	リーダー 次期ガバナー補佐 <b>那須 康弘</b> (出雲RC)
副リーダー 次期ガバナー補佐 <b>物部宏太郎</b> (松江東RC)	副リーダー 次期ガバナー補佐 <b>須山 矜治</b> (益田西RC)

事前のアンケート調査を集約したプリントに基づき、意見発表を求められた。

テーマA リーダーより、例会出席率向上の課題に絞った討議が提案され、出雲RCより会員をグループ分けして競うことで出席率がアップした時期があった。隠岐西郷RCよりホームクラブ出席率は60%台であるが、他クラブと離れておりメーキャップができていないので、例会前日には各自にFAX で出席案内をしている。

テーマB 浜田RCはクラブ活性化委員会を作り会員の考え方などアンケート調査をしている。松江東RCはここ4年間で会員が大幅に減ったため、従前の組織からCLPを取り入れたことにより、会員の意識向上につながった。

テーマD 松江南RCは50周年記念事業で環境を考えるミュージカルを実施した。大田RCは金・銀・銅サミットを開催した(佐渡市・新居浜市と協力)。江津RCは45周年事業で風車と風車の間に小学生と共に卒業記念として桜を植樹した。「空は風車、地は桜」の風景も、現在は100本となり新地区補助を活用して更に増やしたい、との発表があった。

リーダーより新地区補助金の申請は15クラブ中10件であり、更に多くのクラブで活用を求められた。最後にカウンセラーの葛尾直前ガバナーから講評があった。

- ① 環境・新世代活動のプロジェクトが多かった。
  - ② 会員の減少は他国に比べ日・米が多く見られる。
  - ③ 会員の減少を止めるためにもCLPを活用してほしい。
  - ④ CLPはRIの強制ではないから、各クラブで十分に協議されたい。
  - ⑤ 各クラブで長期計画を立案してほしい。
  - ⑥ 会長への要望としては**リーダーシップ・チャレンジ・親睦**の3つであり、最後には会長が責任をとること。
- (文責・奥野寛應)



こころの中を見つめよう 情愛を広げるために

## 特集 グループディスカッション

### 第6 7 グループ

カウンセラー パスト・ガバナー <b>森下 和郎</b> (総社RC)	リーダー 次期ガバナー補佐 <b>道明 道弘</b> (倉敷中央RC)
副リーダー 次期ガバナー補佐 <b>宮尾 俊行</b> (玉島RC)	

リーダーから、「事前アンケートのテーマに基づき順次発表いただきたい。」旨の発言を受け、グループディスカッションがスタートした。

(A)については、「メンバーの減少が著しく、会員増強が課題。」(児島RC)、「地場産業が不況で新会員の確保が困難であり、また、会員の高齢化が進んでいることから、会員増強が課題。」(児島東RC)、「会員が減少し、予算の編成も困難な状況にあり、会員増強が課題。」(笠岡東RC)など会員増強を課題とする発表が相次いでなされた。その他の課題としては、「新入会員と旧会員の意識の乖離」(井原RC)や「CLP 実施への取り組み」(倉敷東RC)などの発表があったが、圧倒的多数のクラブが会員増強を喫緊の課題としていることが窺えた。

(B)については、「渡辺元理事の講演にあったが、「無理やり誘ったことに感謝される」ことをモットーに会員増強に努める。」(児島RC)、「増員目標を2名と定め、会員一人ひとりが2名以上を推薦することのほか、楽しい例会とする。」(倉敷中央RC)、「地区別に班をつくり、班ごとに年何回か集まって、集中して会員候補者の発掘、アプローチを行っている。」(笠岡東RC)などのほか、「会員が

33名から44名に増加している。原因としては、会員の個人的なつながりに負うところが大きい。」(高梁RC)の発表がなされ、会員増強の課題を克服するための方向性に示唆を与えるものであった。

(C)については、「小学生を対象とした環境エコツアー」(倉敷南RC)、「市民健康講座、桜植樹」(倉敷瀬戸内RC)、「雪舟フェスタに連動した小学生書道展」(総社吉備路RC)、「市民祭りにおけるカラオケ大会」(総社RC)など、各クラブの創意工夫された取り組み状況が発表された。

以上の発表の後、カウンセラーの森下和郎パスト・ガバナーから次の講評があった。

皆さんの発表から、第6、第7グループの課題は、会員増強であることがはっきりしている。会員にロータリーがベターであることを理解してもらうのが難しい面もあるが、このことは社会にロータリーのことを理解していただくことが難しいことを意味しており、その結果会員が集まらないことにつながっている。また、ロータリーが街の活性化につながらないことが、会員の増加につながらないとの意見もある。皆さんには、このようなことも理解いただき、対応策を考え、取り組んでいただきたい。

最後に、ロータリークラブが街に何らかの形で貢献しているかどうか会員減少につながっているのではないかと。街に何か良いことをしようという発想をもっていただきたい。

(文責・永岡健治)

### 第8 9 グループ

カウンセラー パスト・ガバナー <b>森 嵩正</b> (津山RC)	リーダー 次期ガバナー補佐 <b>小林 眞一</b> (赤磐RC)
副リーダー 次期ガバナー補佐 <b>脇 利幸</b> (津山RC)	

リーダーの司会により始められ、新入会員集めに関してはどのクラブも思うように勧誘が進まず共通した悩みで、JC会員の中から卒業時に勧誘をして増員につながっている地区の発表もあった。現在会員として参加しているメンバー個々のヒューマンネットワークと日頃の活

動が何より大切であり、この気持ちが勧誘時に力強い説得力となる。

入会して、3年前後の経過後に退会者がある旨を発表したクラブに対しては、年代層の差による先輩、後輩とのコミュニケーションの持ち方に工夫が必要との意見があった。

慣れた頃に、活動のマンネリと親しい仲間グループの片寄りをさけて、役割を分担し先輩・後輩と一緒に汗をかくことで一体感が生まれ退会防止につながっているクラブもあった。

また、夜間の親睦会を実施してから、例会への出席率

# 特集 グループディスカッション

が大幅に上昇して、会員増強につながったとの意見発表もあり、親睦活動の重要性を認識し、習慣、オザナリとなる活動には注意が必要で、「マンネリ化を防止するには委員会の再構成と活動内容の吟味をしっかりと役員会で検討する必要がある」との意見もあった。

また、長年活動された高齢者の方の退会防止策として名誉会員制度を作っているクラブもあった。

社会奉仕活動では、植樹活動が多くあり、公共施設、老人ホーム施設学校施設等への活動が好評で、良い想いの記念樹となっている等の意見もあった。

最後に森 嵩正パスト・ガバナーより、「名誉会員制度

を作って家族会、夜間例会に参加を呼びかける。会員増強については、勧誘時にロータリーの意義をきちんと説明する。入会したら自覚を持って貰うとともに、例会出席はいうまでもなく地区大会・IM等 各種行事には新入会員の参加を義務付けることを各クラブが行って貰いたい」との講評があった。

(文責・本内俊彦)

## 第10 11 グループ

カウンセラー パスト・ガバナー <b>延原 正</b> (岡山南RC)	リーダー 次期ガバナー補佐 <b>井上 元</b> (岡山南RC)
副リーダー 次期ガバナー補佐 <b>大塚 雅司</b> (岡山北RC)	

はじめにリーダーから、会員の減少傾向の中で、会員増強にどのように取り組んでいるか、また、クラブ・リーダーシップ・プラン (CLP) や「夢計画」の取り組み事例など、各クラブの状況を報告していただきたいとの問いかけがあった。

各クラブからは、会員が大幅に減少し、予算を会員増強に使う必要がある (岡山丸の内RC)、住民にアピールし、ロータリーの存在感を示したい (牛窓RC)、同好会がたくさんあって、会員の親睦を深めて退会防止に努めている (岡山南RC)、「5・5・5プロジェクト」と名付けた取り組みで、会員30名を5グループに分け、年間に全体で5名の増加を目標として、5年間で会員数を55名にするという会員増の計画 (岡山旭川RC)、女性会員の加入を積極的に取り組みたい (岡山北RC)、会員の高齢化に

より、若い人を積極的に増強したい (岡山備南RC)、やはり、会員の高齢化により、若い人に委員長をお願いしている (岡山西RC)、などの前向きな意見が述べられた。

また、夢計画は1/2は補助金から出るが1/2は自クラブの負担が悩みのタネ (玉野RC)、CLP は導入したが、必ずしも会員増強には寄与していない (岡山城RC)、新年度からCLP に取り組むが、長期目標と短期目標を設定し、会員に浸透させたい (岡山中央RC)、などの動きも確認された。

最後に延原 正カウンセラーから講評があり、まずは「会員増強」の問題。増強というが、組織は必ず日が続つにつれて人は減っていく宿命がある。「増強」ではなく「補強」という考え方が必要。補強をして行けば結果として強力な組織となる。また、増強委員長に責任を問うのではダメ。会長、幹事、副会長が先頭に立つべき。次に、「夢計画」という名前に惑わされないこと。2690地区で使えるお金が増えたということ。普段通り気にせずやることだ。1/2が補助金、1/2がクラブで、何かをしたいクラブがお金を使えるというふうに理解してもらいたい。

(文責・山崎一彰)



こころの中を見つめよう 情愛を広げるために

## 担当地区幹事・委員長挨拶

### 地区ロータリー財団委員長

鳥居 滋



ロータリー財団の「未来の夢計画」のパイロット地区のプログラムが始まって一年が経過しました。伊藤ガバナー年度から2年目に入ります。本年度の会長、幹事、クラブ財団委員長および

関係各位も上記のR財団の新しいプログラムの理解と経験を積まれたことと拝察いたしております。

さて、大きく変貌したR財団のプログラムを1年経験して、これまでのクラブR財団委員会が、R財団への寄付集めの委員会から奉仕活動の中核を担う委員会への脱皮したことを、ロータリアンの皆さんが感じとられたことと思います。実際、小林ガバナー年度では、新地区補助金を使用したクラブの奉仕活動が30件ばかり走りました。そして、この伊藤年度では、40件ほどの新地区補助金を使う奉仕プログラムが予定されています。このように、地区で使用できる補助金が以前に比べて倍増しており、これらの補助金がクラブの奉仕活動を支えている構図が浮かび上がって参りました。以前の補助金が人道支援プログラムの中にあっただけのもので、新地区補助金ではその枠がはずされ、人道支援以外に、教育、環境、地域支援社会奉仕プロジェクト、奨学金など、広く地区の奉仕活動に使えるようになりました。そして、それらのプロジェクトには、実施するクラブのロータリアンが参加し、共に汗を流すことが強く期待されています。もちろん、この原資は3年前のR財団への寄付金の主旨25%です。こちらの方もよろしくお願ひしたいと思ひます。

### 地区会計長

### 地区資金委員会委員長

豊田 勲



会員数の減少等、地区財政は決して楽観出来る状態ではありませんが、予算配分等を再検討しながら、適正に処理してゆく所存であります。

会員諸兄には、より一層のご支援、ご協力を宜しくお願ひ申し上げます。

### 地区代表幹事

井戸垣 澈男



伊藤ガバナー年度は、まず身近で出来ることから始めよう、をモットーに本年度の目標を設定しております。各クラブ2名の増員、ロータリーカードの40%達成、チェンジメーカー賞への挑戦、青少年活動の育成、活発化を重点にすすめてほしいと念願

しております。「ロータリーは人をつくる」が、伊藤ガバナーのテーマです。人づくりの基本は、困難にいかに対処するかです。

第二次世界大戦の終了の荒廃の中で、日本は大きな経済発展と、世界で賞賛される国民を育成してきました。これから青少年の人間教育をいかに進めるかが大切なことだと思います。今回の東日本大震災は津波による災害、原発事故の発生、大きな国難です。この国難に対しどのように対処していくのか、社会奉仕団体としてのロータリー活動についても、改めて大きな問いかけがなされていると思います。ロータリー財団の活動は「世界でよいことをしよう」が基本です。日本のロータリーは今回の災害に対し震災孤児の教育に大きな手を差し伸べようとしております。ロータリー財団への具体的な行動はロータリーカードの推進も大きな一つです。身近なところから大きな前進に繋がる年度にしたいと思ひます。

### 新地区補助金小委員会委員長

小林 健治



「未来の夢計画」パイロット地区としての2年目の実施年度と3年目の計画年度が、7月より同時にスタート致しました。前年度の三村元博委員長(岡山西南RC)が敷かれたレールの上を中村公彦副委員長(倉敷RC)と

共に脱線しないように運転して行く予定です。レールの上の車には、三村前委員長の他に、秋月廣施委員(松江東RC)、田尻淳委員(岡山中央RC)、そして齋藤敦子財団担当事務職員の合計6人が乗り込んでまいります。

さて、1年目の33プロジェクトの財団への結果報告に続き、2年目の38プロジェクトを申請させて頂きました。関係者の皆様にお礼を申し上げます。38クラブの負担額を含めた総額は約16,986千円で、その内の新地区補助金申請額は約7,328千円であります。この補助金が有効に活用されて、地域でよいことが出来まことを祈っております。

また、各クラブにおかれましては、次年度の計画も早めに立案していただきますようお願い致します。

いい汗を流して奉仕をしていただき、そして、その奉仕を通してロータリーの広報がうまく出来まするように、委員会としてお世話をさせていただくつもりです。皆様のご協力を切にお願ひ致します。

## 担当地区幹事・委員長挨拶

### 会員増強・職業分類委員会委員長 杉島 篤美



国際ロータリー第2690地区 伊藤ガバナー最重点目標は会員増強、

「純増2名以上／クラブ」です。

2010年6月末現在、地区会員総数は3,094名。これ以上の減少は絶対に許されない状況になっております。しかし、会員増強は永く語られ続けておりますが、これをやれば必ず大丈夫といえる、決定的な処方箋などあるはずありません。

それにはやはり、各クラブ会長が明確なる目標意識を持ち続け、少ない情報にも真摯に耳をかたむけ、分析し、自ら行動あるのみではないでしょうか。

会員増強なくしてロータリーの未来は語れません。

その結果、新入会員の入会時例会には、会員皆こぞって喜び、讃えあい、他のクラブに成功事例を発表できるように成るよう願ってやみません。

皆様のご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。

### 職業奉仕委員会委員長

### 山崎 一彰



「職業奉仕に関する声明」の中に「自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てる」とあります。これには、ロータリアン個々の職業を通じて、社会的問題や課題を学ぶ機会をもち、あらゆる日頃の実践活動で生かすことに他なりません。この実践活動により職業人としての品位を高め、社会の中で良好な人間関係が築かれるはずで

す。

職業奉仕月間に指定されている10月は、毎年、クラブと地区が一斉にプロジェクトに着手出来るよう皆様の絶大なるご協力をお願い申し上げます。

### 社会奉仕委員会委員長

### 廣吉 宗一



「地域でいい事をしよう」

毎年各クラブは地域にあった特色ある社会奉仕プロジェクトが進められています。その一つ一つはその地域のニーズに応えた取り組みだと思えます。本年度は新地区補助金制度もスタートし、よりスケールも

大きく更に内容の充実したプロジェクトが企画実行されようとしております。こうした取り組みの成果が地域社会に受け入れられ、会員と共に目標達成の喜びを味わいたいものです。更に、日常生活においても一人一人がこれを実践、広報することが出来れば、地味ではあるがその真摯な姿にRCは社会から高い評価を受け、結果として会員同士の絆は強くなり、会員の増強にもつながるものだと確信しております。又、各クラブでの取り組みをクラブ間で情報交換して今後の社会奉仕の活動が益々拡がることを期待しています。

### 国際奉仕委員会委員長

### 清水 成眞



第2690地区の国際奉仕委員会を担当することとなりました。もちろん、初めてのことなので、戸惑っています。伊藤ガバナーより「国際奉仕委員会は、いままでスリーピング状態なので、少しでも起こしてほしい。」と言われ、どうしたものかと悩んでい

ます。

地区国際奉仕委員会は、クラブとクラブ国際奉仕委員長が国際ロータリーの一員であることの誇りとしての務めを果たしていけるように、さらに、国際奉仕事業がクラブ活性化の一助となるように、きめ細かいサポートをしていきたいと考えています。又、年に1回開催地を変えて行われる国際大会。本年度はタイ・バンコクで2012年5月6日(日)～5月9日(水)の期間に開催されますが、民族の相互理解・国際平和に繋がる楽しいロータリアンのお祭りです。知り合った者同士が、国際大会で再会して友情を深める場所でもあることを広報し、参加を呼びかけていきます。

委員会メンバーの皆様には、大変ご苦勞をおかけすると思いますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



こころの中を見つめよう 情愛を広げるために

## 担当地区幹事・委員長挨拶

### 新世代奉仕委員長

明島 淳吾



昨年度、新世代奉仕が第5の奉仕として決定しました。新世代活動委員会はインターアクト、ローターアクト、青少年交換各委員会と並ぶ新世代奉仕の一端を担う重要な委員会です。

現在の日本の若者の姿を見れば、第5の奉仕が重要であることは明らかであります。この意義ある事業に係わる事ができる喜びをもって、RYLA を中心に活動を進めていきたいと考えています。

この活動が有意義なものとなりますよう、委員会の皆様、地区の皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

### インターアクト委員会委員長

齋木 憲久



今年度、インターアクト委員会委員長を仰せつかりました。

地区インターアクト委員会は各インターアクトクラブの活動を支援し、提唱ロータリークラブ及び顧問教師と連携・協力して、更に活動が充実するよう努めて参ります。また、ロータリアンの皆様には積極的に地区活動に参加して頂き、インターアクターと共に考え、行動し、楽しんで頂きたいと思います。

この1年間の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

### 青少年交換委員会委員長

西谷 純美



ロータリーは人を育てるところです、「種をまき、若木を育て、林をつくり、大きな森にする」。

その若木を育成するのは、ロータリーであり、実行するのは各クラブと地区青少年交換委員会です。

日本が大きな立派な森となるために、種をまくのは青少年交換委員会の交換留学生事業（15歳～19歳 1972年）と、インターアクト（12歳～18歳 1962年）、林をつくるのはローターアクト（18歳～30歳 1968年）、RYLA（14歳～30歳 1971年）、ROTEX、と育てて行って欲しいしその手助けがしたいと思っています。

国際理解と平和を勝取る効果的なプログラムとして、1920年代にヨーロッパで始まりました。

15歳・16歳の人たちが未知の世界・国にチャレンジしようとする真剣さと真面目さを応援できる青少年交換委員会はロータリーの中でも素晴らしい委員会だと思います。

このプログラムを行なうことにより、世界平和と世界に貢献すると言う大きな森ができる事にたずさわれる委員会ではありますが、第2690地区では認知度が高くなく、会員数も減少、高齢化、など問題山積ですが、このプログラムを育てていただけるのは区内会員皆様の温かいお気持ちと、みんなで頑張ろうと言う応援があればきっといい仕事ができるものと期待しております。

今後とも何卒宜しくお願いします。

### ローターアクト委員会委員長

平 守



昨年度、地区ローターアクト副委員長として、ローターアクト会長幹事会、全国ローターアクト研修会、第34回2690地区大会、リーダーシップフォーラム等に参加させて頂きました。彼等の社会奉仕に対する意識・行動が住んでいる町の問題点を考え、地域の明日を変えうる力になり得ることを一人一人が貴重な体験を通して成長しリーダーシップを身につける、日本の明日を託す若者の一人でもあるローターアクトの人材育成こそ我々ロータリークラブが援助し支援して行くことは有意義なことだと思われまます。

ローターアクトクラブは、より多くの人との出会いの場を共有することによって見聞を広め、親睦と奉仕活動を通じてよりよい信頼関係を推進するための機会を提供し、全国にすばらしいネットワークを構築しています。

我々ロータリーも目線を同じくして共に歩み・共に勝利する『With Win』の関係を再構築し人材育成と社会奉仕活動に力を注ぎ、強力なパートナーシップを築き地区内ロータリークラブへ情報発信をしてローターアクトへの関心を深めて頂く努力をしなければなりません。当委員会への皆様のご支援・ご指導賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

## 担当地区幹事・委員長挨拶

### 米山記念奨学会委員会委員長 高木 新一



ロータリー米山記念奨学事業は、勉学、研究を志して日本に在留している外国人留学生に対し、全国のロータリアンの寄付金を財源として、奨学金を支給し支援する民間最大の国際奨学事業であることは、皆様ご承知の通りであります。これまでに世界

119の国・地域出身の約1万6千人を支援しています。

そして、単に奨学金による経済的支援だけでなく、世話クラブ・カウンセラー制度で奨学生と心を通わせています。また、米山学友（元米山記念奨学生）と現役奨学生によって地区ごとに組織されている学友会活動を行ない、日本との懸け橋になるべく、さまざまな活動を行っています。

2008年度から、米山学友ホームカミング制度がスタートしています。今年度も10月の地区大会に米山学友を招待して旧交を深め、日本留学の成果や現在の活躍を披露していただく予定です。半世紀にわたって受け継がれてきた、この素晴らしい日本独自のロータリー「多地区合同奉仕活動」に、皆様のご支援とご協力をよろしくお祈りいたします。

### 職業研修チーム小委員会委員長 清水 成真



本年度、未来の夢計画 グローバル補助金を使用して、RI第3500地区 台湾、新竹市（岡山市と姉妹市）を中心とした地域とのVTTを計画しています。

活動重点項目は「障がい者（児）及び健全児の基礎的教育と識字率向上」とし、研修期間は、2012年4月2日（月）～2012年4月23日（月）の20日間の予定です。内容は、台湾の福祉・医療・教育活動などを自分の目で観察し、吸収し、更に教えてもらうこと。一方、我が国の特色的かつ先進的介護・教育方法等を教え、伝授するという事が双方向で実現すれば、両者に技術的、人的、知的、文化的交流が生まれると考えています。そして、そこに大きな国際理解・国際親善・協力が芽生え、人類の幸福と世界平和に少しでも貢献できる事となり、ロータリーの目指す「世界で良い事をしよう」に近づくと信じています。

今年度、委員の皆様には、大変にお世話になりますが、何とぞよろしくお願い申し上げます。

今年度、委員の皆様には、大変にお世話になりますが、何とぞよろしくお願い申し上げます。

### 財団学友小委員会委員長 八島 弘明



ロータリークラブの地区奨学生派遣事業は、世界理解と平和を促進するというロータリー財団の使命に基づき行うプログラムです。優秀な国際親善使節を留学させるため、専門学力・語学力・ロータリーへの理解など審査の選考基準もかなり厳しく行います。本年度は、2012年～13年の留学予定者の申請書を各推薦クラブを通じて2012年2月に受理し、2012年3月に面接・語学スピーチ等による選考会を行う予定です。

奨学生には、受入地区のロータリークラブと積極的に関わり、勉学と親善が充分になされ、プログラム終了後も推薦クラブとの交流を持ち、社会に貢献できるよう期待しております。地区の皆様のご理解を頂き、優秀な人材の推薦をお願いいたします。

奨学生には、受入地区のロータリークラブと積極的に関わり、勉学と親善が充分になされ、プログラム終了後も推薦クラブとの交流を持ち、社会に貢献できるよう期待しております。地区の皆様のご理解を頂き、優秀な人材の推薦をお願いいたします。

### ロータリーの友地区代表委員 馬野 慎一郎



「ロータリーの友」誌は言うまでもなくロータリーについての情報誌です。RIからの品格ある情報から各クラブ、個々の会員様の溢れる思いが毎月発信されています。本年度地区代表委員として、さらなる内容の充実した「友」誌制作のための情報を各クラブに伝えるとともに、購読数と読書率の向上を目指します。

購読数と読書率の向上を目指します。

我々はロータリーの正しい知識を身につけ、会員増強につなげ、ロータリーに関することを第三者にご理解をいただくことをおのずと実践していくことが求められますが、是非とも日頃から「友」誌をご愛読いただき、活用していただきたいと考えます。

現在の「友」誌は「ロータリーネットワーク」の各クラブ事業紹介に代表されるように、情報交換やコミュニケーションのための楽しく読める工夫もなされております。これまでに引き続きまして「友」誌に各クラブより漲るような情報の提供をしていただきたいと思います。よろしくご協力お願い申し上げます。

### 資金推進(ファンド・レイジング)小委員会委員長 樋口 壽一郎



資金推進小委員会の役割は、年次プログラム基金と恒久基金の地区資金目標に向けロータリアンにその主旨を理解して頂くべく情報提供に心掛けるべきと考えます。

ロータリー活動が活発・かつ着実に運営されるためにも、浄財としての財団寄付が不可欠であり、ご協力の程よろしくお祈りいたします。



## 国際ロータリー一年次大会に参加して

2011-2012年度 地区大会実行委員長

### 岡本博文

今年の大会はアメリカのジャズで有名なニューオリンズで開催されました。

空の旅は全日空で6人のツアーで東京を深夜の0時20分に飛び立ちました。ところが飛行時間の9時間には少々参りました。飛行中はよく寝ていましたが、5時間位で尻が痛くなり苦痛の時間でした。飛行時間は4時間が限度でしょうか。到着を告げるアナウンスの声にはヤレヤレという思いがありました。

ロサンゼルス空港に降り立ったときの、あの広々とした広大さには印象的なものがありました。その後、迎いのバスでホテルまでは1時間でしたが、丁度陽が沈む頃で、建物も何も無いハイウェイの、どこ迄も伸びる地面に広がる片側3~4車線の車の流れは、アメリカ本土である事を実感する十分なものでした。

ホテルに到着の後ほっとする間もなく食事に出かけました。その人混みの多いことにも驚きました。メニューはステーキでしたが、大きくて(デカイ)6割ぐらいしか食べることが出来ませんでした。アメリカ人の体格、肥満を考えると、これぐらいのステーキは当たりまえかも知れません。それだけの力があるのかも。

ロサンゼルスでの朝は5時30分起床で、西海岸のドジャース球場を見物しましたが、昼間の見物で試合を観ることができず残念でした。ドジャース関係の事務所、野球場、駐車場が一つの山を独占しており、野球場は街中ではなく山の上にあります。倉吉の近郊にある大平山程の高さでした。あれでは電車や徒歩では行くことは不可能です。やはりクルマ社会のアメリカだから可能なのでしょう。



ロサンゼルスの海岸線は40キロメートルに及ぶそうですが、その端は見えませんでした。次に、ロサンゼルスの住宅街を1時間ほどドライブしましたが、広い敷地で塀などの区切りは無く、二階建てのゆったりとした住宅ばかりでした。何でもロサンゼルスでは、土地だけの価格ではなくて、全て建物を含めた価格だそうです。土地にこだわる日本では考えられないことです。

ラスベガスの空港に到着したのは夜でした。空から夜のラスベガスを見ると、砂漠の中に明るいネオンのかたまりがあって、その周辺には見渡しても何も無くラスベガスの街のみが明るく輝いているのです。その中で街を碁盤の目のように道路が走っているのが見えるのです。

ラスベガスとはもともと砂漠だった、そこへ地下水が出るのを頼りに、勇気あるアメリカ人がこの賭博の街を創ったという事です。ホテルも世界でベスト2という、部屋数も5000室とか。1階にはスロットゲーム機が400台程ありましたが、全てお客様の利用で、私達のような賭博を知らない者が入る余地はありませんでした。



ところで、ニューオリンズの空港に到着するとジャズの生演奏がされていて、さすがジャズの街だと感激しました。ニューオリンズでの本命の『RI年次大会』の会場は、ミシシッピ川に近いホールで開催されました。会場は広く、参加者も数万人とスケールの大きな大会となりました。“友愛の広場”も広い会場でしたが、参加の会員も多く、買い物をするにもしばらく待たなければ求めることが出来ないほどのロータリアンで溢れ返っていました。

世界は広い!ロータリーは素晴らしい!

2011-2012年度 国際ロータリー第2690地区

ロータリー財団寄付クラブ目標額

グループ	クラブ	年次	ポリオ撲滅	新ベネファ	「遺贈友の会」
		寄付目標	へのチャレンジ目標	クターの数	新会員数
		(単位ドル)		(人数)	
1	智頭	1,680	1,000	0	0
	倉吉	7,700	2,000	1	0
	倉吉中央	2,300	230	0	0
	倉吉東	4,200	0	0	0
	鳥取	7,980	2,000	1	0
	鳥取中央	4,400	0	0	0
	鳥取北	7,700	0	0	0
	鳥取西	7,700	0	0	0
2	境港	4,400	0	0	0
	米子	6,700	1,000	1	0
	米子中央	3,200	0	0	0
	米子東	10,640	2,000	1	1
	米子南	6,860	0	1	0
3	松江	8,400	0	0	0
	松江東	8,260	0	1	0
	松江南	9,660	1,000	1	0
	松江しんじ湖	8,820	1,000	1	0
	隠岐西郷	4,060	0	0	0
4	平田	5,180	0	0	0
	出雲	7,000	900	1	0
	出雲中央	7,140	0	1	0
	出雲南	8,260	1,000	0	0
	大社	6,020	0	1	0
5	江津	3,780	700	0	0
	浜田	7,700	1,000	0	0
	益田	3,500	1,000	1	0
	益田西	4,620	1,000	1	0
	大田	4,200	480	1	0
6	井原	6,720	1,000	0	0
	笠岡	6,000	0	1	0
	笠岡東	5,880	0	1	0
	新見	2,240	0	1	0
	総社	5,460	0	1	0
	総社吉備路	3,700	0	0	0
	高梁	6,300	0	1	0
	玉島	4,200	0	0	0

グループ	クラブ	年次	ポリオ撲滅	新ベネファ	「遺贈友の会」
		寄付目標	へのチャレンジ目標	クターの数	新会員数
		(単位ドル)		(人数)	
7	児島	4,060	0	0	0
	児島東	3,220	0	0	0
	倉敷	11,200	2,000	1	1
	倉敷中央	2,660	0	1	0
	倉敷東	5,880	0	1	0
	倉敷南	9,380	2,000	1	0
	倉敷水島	4,480	0	1	0
	倉敷瀬戸内	5,320	0	1	0
8	真庭	4,760	340	0	0
	美作	5,320	0	0	0
	津山	12,460	0	1	0
	津山中央	3,780	0	1	0
	津山西	3,500	0	1	0
9	赤磐	2,940	0	0	0
	備前	6,020	0	0	0
	岡山	11,000	1,650	1	0
	岡山東	12,320	0	1	0
	岡山北西	7,140	2,000	0	0
	岡山後楽園	7,000	0	1	0
10	岡山旭川	2,900	2,000	1	0
	岡山中央	6,160	0	1	0
	岡山北	6,580	0	0	0
	岡山南	21,000	0	1	0
	玉野	4,620	480	1	0
	牛窓	1,120	0	0	0
11	岡山備南	4,900	2,000	0	0
	岡山城	4,200	500	1	0
	岡山岡南	4,060	0	0	0
	岡山丸の内	4,480	0	0	0
	岡山西	7,700	1,000	0	0
	岡山西南	18,760	0	0	0



2012-2013年度  
Rotary Youth Exchange

# 派遣交換学生募集



2012-2013年度の地区派遣交換学生について  
募集を開始しますので、希望者を貴クラブにおいて十分検討のうえ、お申し込み下さい。

## 基本事項

- ◆交換地域：アメリカ合衆国、またはその他諸外国
- ◆交換の期間：2012年8月より1年間
- ◆人数：3人
- ◆資格：クラブ会員子女またはクラブ会員が責任を持ち得る家庭の子女を対象とし、海外到着（派遣）時、2012年8月末に15歳から18歳未満の学生で、高校1年生程度以上の学力を有すること。
- ◆派遣、受け入れともクラブが責任を持つものであること。原則として派遣のクラブにおいて受け入れ、引き受けの義務がある。当委員会の規約に基づかないクラブ独自の交換は地区は関知しない。
- ◆派遣学生については、各クラブにおいて十分な人物選考を行った上、地区委員会（ガバナー事務所内）に推薦し、地区委員会はその中からテストを行って合格者を決定する。
- ◆派遣学生の相手地区への往復の旅費の補助は1人当たり30万円である。相手地区における通学及び生活費は先方が負担する。
- ◆受け入れクラブにおいては、派遣学生出身の家庭をファースト・ホストファミリーにすることが望ましい。その後は、所属クラブ会員が輪番でその家庭に受け入れ、通学及び生活の世話をする。

## 申し込み期限

各クラブから当委員会への申し込みは、2011年10月31日（月）必着とする。

## 選考日

2011年12月初旬を予定。倉吉市内において実施。詳細は後日通知する。  
選考テスト：英語（英会話と筆記）・国語（日本語による作文）・面接

## 申し込み方法

- ◆長期青少年交換プログラム申請書（和文・英文）…各4部（希望クラブはガバナー事務所に申請書を請求のこと）  
\*保護者の承諾書  
\*学校長の人物調査書（クラスにおいて1/3以内の成績を収めていることが必要）  
\*医師の健康診断書
- ◆本人の履歴書および身上書（家族構成を含む）（用紙は市販のもの）（本人の写真添付のこと）…4部
- ◆学業成績証明書…4部
- ◆クラブ会長の推薦書…4部  
詳細はホームページを確認のこと <http://www.rotary.org/ja/>  
[トップページ]→[学生と少年]→[青少年交換]

## お問合せ先

第2690地区ガバナー事務所まで

## 文庫通信 (286号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー 50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万3千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

### 地区大会の講演から

◎「日本の歩むべき道」	小泉純一郎	2011	8p	(D.2590)
◎「日本人のわすれもの」	櫻井よしこ	2011	2p	(D.2690)
◎「日本経済復活のキーワード“グローバルセンス”」	財部 誠一	2011	3p	(D.2760)
◎「地域の繁栄は国の繁栄」	金 美齢	2011	2p	(D.2630)
◎「私とスペシャルオリンピックス活動」	有森 裕子	2011	6p	(D.2750 第30回インターアクトクラブ年次大会)
◎「変わりつつあるロータリー」	江崎 柳節	2011	3p	(D.2760)
◎「ロータリー財団の方向性」	川尻 政輝	2010	5p	(D.2780)
◎「CLPとクラブ活動について」	松宮 剛	2010	9p	(D.2780)
◎「津波が変えた私の人生」	道下 俊一	2008	10p	(D.2780)

[申込先：ロータリー文庫（コピー／PDF）]

**ロータリー文庫** 〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階  
TEL (03) 3433-6456・FAX (03) 3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>  
開館＝午前10時～午後5時 休館＝土・日・祝祭日

表紙・長谷寺絵馬 曳黒馬図 慶長20（1615）年、縦35.0cm横55.0cm  
猛々しい黒馬が二人の引手に制止される、気迫に満ちた絵です。祈雨の宿願が果たされたことに感謝しての奉納でしょう。額を失い上下も破損した絵馬板ながら、躍動感のある技量の優れたものです。

この絵馬の奉納から161年後の安永5（1776）年、同じ構図の絵馬が再び有元氏子孫から奉納されています。元の絵と改作した絵と共に残る貴重な例です。  
長谷寺には、絵から抜け出して畑を荒らした馬の伝説が伝わります。

国際ロータリー第2690地区  
2011-2012年度  
地区スローガン



ロータリーは人をつくる

国際ロータリー第2690地区 2011-2012年度 ガバナー  
**伊藤文利**

〒682-0887 鳥取県倉吉市明治町 1037-11 倉吉商工会議所 3階  
TEL 0858-24-2690 FAX 0858-24-2691  
E-mail : ito2690@shirt.ocn.ne.jp

ホームページよりPDFをダウンロードできます

[http://www.rid2690.org/index.cgi?c=month\\_letter-1](http://www.rid2690.org/index.cgi?c=month_letter-1)